

無憂樹

『二河白道』

令和7年3月号

浄尊寺
熊本市西区田崎
1-4-39
TEL・FAX
096-354-6530



暑さ寒さも彼岸までといいま
すが、三月は春のお彼岸になり
ます。彼岸は彼の岸と書くよう
に、あちら側の岸、すなわち仏
さまのさとりの世界、お浄土の
ことです。それに対してこちら
側の岸を此岸といい、すなわち
迷いの世界、私達のこの娑婆
世界です。

お彼岸によくお話されるの
ですが、信心を得てこちら側の
岸(此岸)からあちら側の岸
(彼岸)に往生する様子を七
高僧のお一人で中国の善導

大師が示された『二河白道』の
喩えがあります。それを本願寺
派勧学の普賢保之先生が書か
れていたものを紹介させていた
だきます。

『西方に向かう旅人の目の前
に、忽然と二つの河があらわれ
ます。南には燃えさかる火の
河、北には荒れ狂う水の河です。
それぞれ河幅は百歩ほどで、深
さは底なしに深く、南北には無
限に広がっています。二つの河の
中間には一筋の白道があり
ます。その幅は四、五寸ほどで
す。旅人の背後には盜賊や

猛獣があらわれ、旅人を殺そ
うとせまってきます。引き返そ
うとしても、また立ち止まって
も、前へ進むもうとしても、もはや
死を免れることはできません。
そこで旅人は一筋の白道を進
もうと決意します。すると、旅
人のいる東の岸から、「汝、こ
の道を行け、そうすれば間違い
なく死の難から逃れるであろ
う」という声が聞こえてきまし
た。また西の岸からは「汝、
一心にためらうことなくまっす
ぐに来るがよい。わたしがそな
たを護ろう」という声が聞こえ
てきました。東の岸からの声は
お釈迦さまの教え、西の岸から
の声は阿弥陀仏の本願をあら
わしています。二つの声に随って

白道をまっすぐに進むと、西
の岸、つまり浄土にたどり着く
ことができました。火の河とは
私たちの瞋憎(いかり、にくし
み)を、水の河は私たちの貧愛
(むさぼり)をあらわしています。
白道は浄土往生を願う
清浄な心、つまり他力の信心
をあらわしています。また盜賊
や猛獣は念仏者以外の橋
慢心や懈怠心を持った人々を
指しています。他力の信心をい
ただくことにより、娑婆(堪忍
土)からさとりの世界である
浄土へと往生できることをあら
わしています。』

どなたさまも彼岸をご縁と
して、お浄土の確かさを、お
聴聞させていただきましょう。